

令和元年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

三次市立十日市中学校

1 国語

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる 生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	能力	目標	結果			
第1学年	話す・聞く能力	+4.0	-0.7	<ul style="list-style-type: none"> ○言語の領域は、他の領域の目標値よりも上回っており、決まった内容を覚えることに苦手意識は低いと考えられる。 ●人物の心情を読み取る問題の正答率は50%未満であり、目標値を下回った。文脈上の語句の意味を正確にとらえることが不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の勉強に対する肯定的評価は41.3%と低く、読書率も34.8%であった。このことは、文章読解の正答率の低さとの関連性がうかがえる。 ・国語で学習したことが生活の中で役立つと考えている生徒は89.2%と多いが、学習した内容を実生活で生かしたといった有用性を感じられる場面が少ないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から様々な文章に触れる機会（読み聞かせなど）を設定したり、単元テスト等を実施したりすることで実態把握を行う必要がある。また、定期的に定着率を自覚させる場面を仕組み、自分自身の変容が感じられる活動を工夫したい。
	書く能力	+4.0	+5.4			
	読む能力	+3.0	-0.8			
	言語	+5.0	+6.7			
第2学年	話す・聞く能力	+1.0	-3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことの領域の正答率は目標値より16.3%も高く、表現力の高さを示している。文章表現活動を定期的に設定していることが要因の一つに挙げられる。 ●言語については、正答率が45%以下の問題が3問あり、言語活動に課題が残った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の勉強に対する肯定的評価は61.6%と意欲的であり、生活の中で役立つと感じている生徒の割合も85.8%と高い。その一方で、国語辞書の活用率は46.5%と低く、言語に関する関心はあまり高くないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学習活動において、辞書の活用や新しく学習した語句を使って例文を作るなどの工夫をする必要がある。
	書く能力	+10.0	+12.7			
	読む能力	+2.0	+0.7			
	言語	+5.0	+0.4			
全体	●正答率が40%未満の生徒は各学年で5人未満であるが、話すこと・聞くことの領域においては共通して目標値より下回っている。			<ul style="list-style-type: none"> ・学年によって国語への関心の差に大きな違いはあるが、ともに生活の中で役立つと感じている生徒が多い。実用性の高い学習内容を仕組み有効性を感じさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定着状況を把握する場面を定期的に仕組み、分析や改善のサイクルを活用した学習活動を行う。 	

2 社会

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	目標	結果				
第1学年	思考・判断・表現	+3.0	-2.4	<p>○1問1答の問題だけではなく、資料の読み取り問題も取り入れた小テストを定期的実施し、知識の定着と資料活用の技能の習得を目指した。資料活用の技能に関しては、全国平均を上回った。</p> <p>●歴史的・地理的事象を関連付けることや、自分の考えを表現する力が身につけていない。</p>	<p>・社会科の学習に苦手意識を持っている生徒が多い。また、「わからない地名にであつたら、自分で地図帳を使って調べますか」「歴史上のできごとや人物をあつかっている本を読むのは好きですか」といった質問の肯定的回答が少ないことから、学習に対する主体性が低いことが分かる。</p>	<p>・「社会で勉強したことで、生活に役に立つことはありますか」の項目に対する肯定的回答が多いので、歴史的・地理的事象を現代の生活と関連付けたり、比較したりする活動を通して、学習意欲の向上や思考・判断・表現力の育成に努める。</p> <p>・単元の初めにレディネステストを実施し、小学校の学習の理解度・生徒の実態を把握することで、授業につなげ、苦手意識の克服に努める。</p>
	技能	+4.0	+0.4			
	知識・理解	+4.0	-1.5			
第2学年	思考・判断・表現	+3.0	+3.7	<p>○小テストと定期的に課題とノート提出を継続した結果、3観点ともに全国平均を上回ることができた。</p> <p>●歴史的分野は全国平均を上回っているが、地理的分野では、全国平均を下回っている。</p>	<p>・社会科が好き、特に歴史が好きな生徒が多い。社会の学習から新聞やニュースに関心を持つ生徒が増えた。</p> <p>・地図帳を使って調べる生徒は少ない。歴史は好きだが、地理はあまり好きではない生徒が多い。それがそのまま学力の傾向に表れている。</p>	<p>・日本の諸地域を中心として授業改善が必要である。資料や地図を使った授業づくりを進める。毎時間、地図帳を使う楽しさを感じられる取り組みを継続したい。</p>
	技能	+4.0	+0.9			
	知識・理解	+4.0	+0.5			
全体	<p>○小テストを定期的実施し、基礎的な知識の定着を図ったり、資料の読み取りを行ったりすることで、知識と資料活用の技能は身に付いてきた。</p> <p>●思考力・判断力・表現力に課題を持つ生徒が多い。また、社会科の学習に意欲的に取り組める生徒が少ない。</p>			<p>・社会に苦手意識を持っている生徒が多い。歴史が好きな生徒でも地理は苦手、地理が好きな生徒でも歴史は苦手といったように、社会科全般に意欲的に取り組める生徒が少ない。</p>	<p>・各単元において、生徒の学習意欲を引き立てる工夫が必要である。そのためにも学習課題を日々の生活と結び付けたり、協同学習や資料を活用し表現したりする活動を増やしていく。またテストなどを通して知識の定着度を把握することで、授業方法の改善にもつなげたい。</p>	

3 数 学

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
		目標	結果		
第1学年				<ul style="list-style-type: none"> ・「数学の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の項目における肯定的評価の割合は85.8%であり、数学の学習に有用感をもっていることがわかる。 ・「問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。」「数学の時間に、いろいろな考え方を発表し合うことは好きですか。」の項目における肯定的評価の割合が50%より低く、様々な解き方を見つけたり交流したりすることに対する積極性が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解き方が多数ある問題を授業の課題に設定し、生徒同士が違う解き方を交流する中で、それぞれのよさに気付くことができるような授業の工夫をする。 ・2学年での文字式の学習で計算方法を丁寧に指導し、問題を多く解くことで解き方を身に付けさせる指導を行う。
	考え方	+8.0	+2.2		
	技能	+8.0	-2.9		
	知識・理解	+8.0	+1.4		
第2学年		目標	結果	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学の勉強は好きですか」の項目は肯定的評価が59.8%と課題が見られた。 ・「数学の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の項目では肯定的評価が84.8%と高いので、数学を現実の世界に活用し、意味づけていくことで数学に対する興味関心をより高めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りを充実させることにより内容の定着とともに次回への意欲につなげていく。 ・ゲーム感覚で行った授業に関わる問題で正答率が高く、意欲的に学習できる教材研究を行う。 ・年間を通して取り組んだ計算問題については正答率が高く、基礎の定着は継続して行う。
	考え方	+3.0	-1.3		
	技能	+2.0	-2.3		
	知識・理解	+3.0	-0.3		
全体	<ul style="list-style-type: none"> ○第1学年、第2学年ともに、図形の領域が目標値より高い正答率であった。 ●第1学年、第2学年ともに、関数の領域の平均正答率が目標値より下回っている。 ●40%未満の生徒の割合が1,2年生それぞれ18.3%, 30.4%とどちらも高い。 			<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年、第2学年ともに「数学の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の肯定的評価の割合が全国より高い。 ・「問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。」の肯定的評価の割合が第1学年は48.9%, 第2学年は54.4%と低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年、第2学年とも基礎・基本が定着できるように家庭学習や授業での工夫をする指導を引き続き次年度も行う。 ・関数の指導において、生徒が意欲的に取り組める授業内容の工夫と振り返りの工夫を行う。

4 理 科

学年	【教科指導について】			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
	〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題				
第1学年		目標	結果	<p>○実験や観察を多く取り入れたことで、思考と関心の観点が重なる問いの正答率が高かった。</p> <p>●グラフから読み取る、計算で求めるなど、普段生徒が苦手とする内容に関わる問いの正答率が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意識調査から、授業での実験や観察は好きだが、理科への関心が低いことがわかる。特に、理科に関する書物やテレビ番組をあまり見ないことから、理科に「楽しさ」を求めている。 「理科が生活の中で役立つと感じることがある」ことから、身近な現象や生徒の感じた疑問を元に実験・観察を進める必要がある。
	思考・表現	科学的な +10.0	+1.9		
	技能	+8.0	-1.2		
	知識・理解	+5.0	+0.4		
第2学年		目標	結果	<p>○これまで学習してきたことの復習時間を確保し、関係する事柄について様々な角度から考えることに重点をおき指導した。すべての項目において、全国、市町村平均を上回ることができた。</p> <p>●語句の意味について問う問題の正答率が低く、言葉の意味について正確に理解できていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実験をして現象を確認する中で、実験操作においては適切に進めていくことができるが、その結果から考察に続く過程で、理解しなければならない内容が何なのかよくわかっていない現状がある。何を理解しようとしているのか目的意識が低い。
	思考・表現	科学的な +5.0	+4.0		
	技能	+5.0	+3.2		
	知識・理解	+5.0	+3.4		
全体	<p>○実験や観察を多く取り入れている結果、自分たちが身近に感じることでできる問いについては定着力もあり、正答率も高くなっている様子が見られる。</p> <p>●語句の意味の理解ができておらず、設問の正しい理解ができていない。資料の読み取りについては、与えられている情報の中から有用な情報を自分で探し出すことが苦手である。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が社会でどのように役に立ち、生活の中に取り入れられているかについてあまり意識できていない。理科で学習することの有用感や、興味・関心についての意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活とのつながりを重視した授業展開を考え、より生徒が身近に感じられる内容で学習を進めていく。 単元間のつながりを意識し、生徒が系統的に理解できるよう、既習事項と現在の学習内容の関連性を常に意識できるよう工夫をする。

5 英語

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
第1学年	表現の能力	目標 +2.0	結果 +1.1	<p>○話の要点を聞き取る問題を積極的に取り入れたことで、聞くことが全国平均より上回った。特に、要点を聞き取る問題は全て平均を上回っている。</p> <p>●場面に応じて英文を作る力が身につけておらず、全国平均を下回っている。</p>	<p>・「学校の廊下で、外国人講師の先生に英語で話しかけられたら、あなたは どうしますか。」の項目に対し、約8割の生徒が会話をしようとする と答えているが、その反面、約半数の生徒が英語に対する苦手意識を持っている。</p> <p>・家庭でもテレビ等で英語番組を見たり聞いたりする生徒が全国平均より低く、英語に触れようとする意識が低い。</p>	<p>学習意欲を向上させるためにグループワークや協同学習など、主体的に取り組める活動を取り入れる。またそれらの活動の中で、場面に応じた会話など、状況に応じて表現する機会を積極的に取り入れ、音として表現したことを書く活動へとつなげていき、英作文の力をつけていきたい。</p>
理解の能力	+1.0	+4.5				
知識・理解	+0.0	-1.3				
第2学年	表現の能力	目標 +3.0	結果 -1.7	<p>○本文読解の授業で英問英答等の設問への解答方法について詳しく指導したため、聞き取り問題や長文問題においては、全国平均を上回る問題が多く、外国語理解における基礎・基幹身につけている。</p> <p>●単語を書く問題や対話の流れに合った英文を書く問題における無回答率が約20%~30%であり、正答率も全国平均を下回るものが多く、外国語表現の能力に大きな課題がある。</p>	<p>・「英語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか。」という質問に対し、75.9%の生徒が肯定的な回答をしている。しかし一方で、テレビやラジオなどを用いて家庭で英語学習をしている生徒の割合は、34.8%に留まっており、自主的に英語学習を進める生徒は少ない。</p>	<p>・身近な場面を設定し、英語で事実や自分の意見を話す場を増やし、「できた」という達成感を持たせることで、生徒の学習意欲を高めていきたい。また、話すと同時に、語順指導や文章構成に関する指導も行い、事実や自分の意見を英語で書けるよう、書く力の向上も目指して指導をしていきたい。</p>
理解の能力	+3.0	-0.8				
知識・理解	+3.0	-0.2				
全体	<p>○理解の能力、特に聞き取り問題においては、どちらの学年もおおむね定着している。</p> <p>●全体的に表現の能力において大きな課題がある。</p> <p>●単語を書く問題などの初歩的なレベルの問題から正答率は低く、基礎的・基本的な力が十分に身につけていない生徒が多い。</p>			<p>・英語学習の必要性は感じているものの、学習意欲の向上にはつながっておらず、自主的に英語学習を進める生徒が少ない。苦手意識を減らし、積極的に英語を使わせるためにも、英語使用量を増やしていく必要がある。</p>	<p>・授業でオーセンティックな英語に触れさせる機会を増やし、身近な場面を想定し活動を行うことを意識して、より生徒の英語使用量を増やしていく。また、授業外でも英語を実際に使う場面を設定し、実生活で英語を使う経験をさせることで、達成感や学習意欲の向上につなげたい。</p>	

6 生活と学習に関する意識・実態

学年	○一層定着させたい点 ●改善したい点	課題に対する具体的な取組
第1学年	<p>○全国結果に比べ、学習が必要であると肯定的に回答している生徒が多い。</p> <p>●全国平均と比べ「授業が楽しい・勉強したい」の問いに否定的な回答している生徒が多い。学習に対しては意欲が低く、やらされている観が見える。</p> <p>●全国平均と比べて「睡眠時間が短い」と回答した生徒の割合が多く、「朝食を毎日とる」と回答した生徒の割合は低い。生活リズムや規則正しい食生活の定着が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が意欲関心を高めるような課題の設定を行い、常に授業改善に努める。 自主的な学習ノートを推進し、自分で学習したい教科を積極的に行えるようにし、意欲を高めていく。 生活リズムや朝食の必要性など生徒保護者に啓発する取り組みをしていく。 各教科と連動し、なぜ必要なのかしっかりと理解させていく。
第2学年	<p>○全国結果に比べ、学校や勉強に対して肯定的に回答している生徒が多い。</p> <p>○学習意欲に関わる質問では、「他者にほめられるから」などの外発的動機づけよりも「ためになる」、「役に立つ」などの内発的動機づけによるものに肯定的に回答した生徒が多い。</p> <p>●1日の睡眠時間が6時間より少ない生徒の割合が全国結果に比べ多い。</p> <p>●「朝食をとらないことが多い」、「全く、またはほとんどとらない」と回答した生徒割合が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分なりの学び方を獲得し、内発的動機づけによる学習意欲を高めることを目的として、卒業生や保護者など他者に学ぶ機会を設定する。 1・2学年で行った「自主学习ノートの交流」などを継続し、自分の学び方を振り返る場面を設定する。 主体的に生活リズムを整える意欲を向上させるために、学校で設定させる目標についても、学校での活動に限らず、自らの生活リズムを振り返ることを通して、具体的な目標を設定させる。
全体	<p>○勉強すれば受験に役立つ・仕事に役立つと考えている生徒が多い。</p> <p>●1・2年生共通して「朝食をとらないことが多い」、「全く、またはほとんどとらない」と回答した生徒割合が多い。</p> <p>●授業中にわからないことがあった場合、わからないことをそのままにしている生徒の割合が全国に比べて多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> わからないことをそのままにせず、調べたり、聞いたりする主体的な学習ができる授業改善が必要である。 「朝食をとらないことが多い」「まったく取らない」生徒の割合が多い。生徒自身・保護者へ教科や保健室で啓発活動をしていく。 生徒に学習や生活の振り返りをうながし、自分を見つめ、自分で決定して取り組ませることで主体性を育成する。